

★オプション検査の説明

※人間ドックの対象年齢を変更しています。（2024年度まで：35歳以上 ⇒ 変更後：35歳、および40歳以上）
※対象年齢は2026年3月31日時点の年齢になります。
※医療機関によって選択できる検査項目が異なります、医療機関選択画面にて受診可能な項目名を確認できます。

◆婦人科検診

乳がん検査 ※婦人科検診は乳がん検査と子宮がん検査のセットでの受診が原則ですが、受診できない理由がある場合はどちらか一方での受診も可能です。

項目	説明文	自己負担費用 (当日支払) ※税込表記
乳房超音波検査	・乳房にゼリーを塗り、超音波を発するプローブという器具をあて、その反射波(エコー)を解析し、画像にする検査です。 ・X線を使用しないため被曝の心配が無く、触ってもわからないくらいの小さな「しこり」を見つけることができます。 ・乳腺の密度の濃い若年者は、マンモグラフィよりエコーの方が乳がんを発見しやすいこともあります。	無料
マンモグラフィ	・乳房をX線撮影し、がんの疑いが無いかを調べます。（X線を使用するため、妊娠中の人には適しません。） ・乳房を挟んで撮影するため、人によっては多少痛みが生じることもあります。 ・乳腺が発達している若い人や授乳中の人、乳腺濃度が高い人は、マンモグラフィではがんが見つかりにくいいため超音波検査が適しています。	無料

子宮がん検査

子宮頸部細胞診	・子宮頸がんは、子宮の頸部(入り口)にできるがんです。 ・頸部の細胞を専用のブラシやヘラなどで優しくこすり、細胞を採取し、がん細胞が無いかを調べます。	無料
---------	--	----

◆人間ドック

眼底検査 (40才以上は定健コースに含まれます)	・瞳孔の奥にある眼底を眼底カメラで撮影し、眼底の血管、網膜、視神経等を調べる検査です。 ・動脈硬化の程度、高血圧症、糖尿病網膜症等の糖尿病の眼の合併症や、緑内障・白内障の有無を調べます。	2,000円 ※胃部内視鏡検査はプラス3,300
眼圧	・眼球の中は、房水という液体により圧力が保たれており、これを眼圧といいます。 ・検査は、直接眼に触れることなく、空気を吹きつけて測定します。 ・眼圧が高い場合は高眼圧症、または緑内障の疑いがあるため、精密検査の必要があります。	
胃部レントゲン検査	・造影剤（バリウム）を飲んで、検査台の上で体の向きを上下左右に回転させて、上部消化管（食道から胃、十二指腸まで）内を流れるバリウムをX線で撮影し、胃の形や粘膜上に異常がないかを確認します。	
胃部内視鏡検査	・口や鼻から内視鏡を挿入し、カメラで直接「食道」「胃」「十二指腸」の様子をみて、がんの疑いが無いかを調べます。 早期発見に優れており、被爆の心配がありません。	
腹部超音波検査 (腹部エコー)	・お腹に、超音波を発するプローブという器具をあて、その反射波(エコー)を解析し、画像にする検査です。 ・肝臓、脾臓、腎臓の腫瘍の有無、腹部大動脈瘤等の有無、胆嚢や胆管における胆石等の有無を調べます。 ・超音波検査では、超音波が入りにくい部分があるため全域を観察できないことがあり、特に脾臓は奥深い場所にあるため、見づらくなります。	
肺機能	・息を吸ったり吐いたりして、息を吸う力、吐く力、酸素を取り込む能力などを調べます。 ・スパイロメーターという機械を用いることが多く、鼻から空気が漏れないようにクリップでつまみ、マウスピースという筒をくわえて、検査技師の指示に従って息を吸ったり吐いたりします。 ・基準値以下の場合、喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、間質性肺疾患をはじめとする呼吸器疾患が疑われます。	

◆脳ドック

※脳ドックは人間ドックとセットでの受診になります。（脳ドックのみを選択することはできません） ※下記3種類の検査のうち、2種類を受診いただきます。（医療機関により検査方法の組み合わせは異なります）		
頭部MRI検査	・脳の断面や立体的な画像を撮影します。 ・脳実質の状態（脳腫瘍、脳萎縮の程度、過去に生じた無症候性脳卒中など）を調べます。	7,000円
頭部MRA検査	・脳の血管を、さまざまな角度から映し出す検査です。 ・脳血管の様子（脳動脈瘤や狭窄、閉塞など）を調べます。	
頸動脈エコー検査	・脳に血液を送る首(頸部)の動脈を、超音波で視覚化できる検査です。 ・脳卒中を予測できる頸動脈狭窄症を見つけたり、動脈硬化の早期発見やその進行具合を把握することに繋がります。 ・脳卒中、認知症の家族歴や喫煙、肥満、高血圧症、糖尿病、脂質異常症などに心当たりのある方には、特に受診をお勧めします。	

※脳卒中の多くは脳に血液を送る動脈が詰まったり、破れて出血することによって発症します。この原因になるのが、血管狭窄や脳動脈瘤の破裂などです。これらの病変は進行していても無症状であることが多いため、検査による早期発見が有効です。